

創立60年記念

## 第58回福島県公立学校退職校長会二本松大会

### 会長（主催者）挨拶

期日：令和6年6月12日（水）午前10時～

会場：二本松市「二本松御苑」

山々の木々の緑が一層色濃く目に映えるよい季節となりました。

本日、福島県教育委員会教育長様、二本松市長様をはじめこのように多くのご来賓のご臨席のもと、県内各地から会員の皆様をお迎えし、百名城のひとつである「霞（かすみ）ヶ城」や「戒石銘」等の歴史的遺産、そして重要無形民俗文化財の「提灯祭」や「菊人形」などの文化の香り高い二本松市において創立60年記念第58回福島県公立学校退職校長会二本松大会が昨年の郡山大会に続き、一堂に会し盛大に開催できますことは、この上ない喜びであります。

さて、福島県公立学校退職校長会は、昭和40年4月9日に退職した校長先生方386名を会員として「本県並びに日本教育の正しい発足に総力を結集する」ことと「経済の変動に伴う恩給年金のスライド制を確立促進する」こと、「会員相互の親睦を図り同志の団結を深める」ことを本会の運動の目標と定め設立されました。退職・現職の校長先生方が力を合わせ、全国的にも早期の設立で他に例も見ない優れた組織として「県内16支部すべてがほぼ同時に発足し、支部組織として確立された」こと、「小学校・中学校・高等学校等の校種を一本化した全国組織として発足した」こと、「行政機関との連携が円滑に行われながら発足した」ことなどが内外から高く評価されました。

設立から数えて60年。当時に比べ6倍以上に増えた2400余名の会員の方々が各支部においてそれぞれのお立場で生き生きと活躍されておられますことは、嬉しい限りです。

中央教育審議会では、令和の日本型学校教育の構築を目指し、全国的な教員の人材不足と優秀な人材の確保の観点から、採用試験の前倒し実施に加え、小学校における教科担任制を三・四年生から実施することや教職調整額を4%から10%以上に増額すること等を提言しました。本県においても、小学校の教員採用試験の倍率が年々低下を続け、令和5年度は1.4倍と過去最低になり、このような状況に危機感を感じ、本会の重点事項のひとつに福島大学や県教委と連携した教員の魅力発信を位置づけました。そこで先日福島大学の2年生約200名に「教員の魅力と本県教育の現状」という内容で講義を行ってきました。熱心に話を聞いてくださり、現段階では、ほとんどの学生が教員志望であることに少し安堵してきました。今後もこのような活動を続けてまいりたいと考えています。

また、県教委では、国の教育基本計画や本県児童生徒の実態等をもとに、令和4年度から今後9年間を見据えた福島県の教育を進めるための指針とした第七次福島県総合教育計画の中で、子どもたち一人一人の多様な幸せと社会全体の幸せであるWELL-BEINGの実現を図るため、社会の課題に主体的に向き合い多様な他者と協働して解決に向かう力をはぐくんでいくことが不可欠であるとし、福島の良さを大切にした「福島ならではの教育」を推進し、画一的な授業から個別最適な学び、協働的な学び、探究的な学びへと変革していく「学びの変革」と同時に教職員の多忙化解消等のため、「学校の在り方の変革」を掲げました。

この総合教育計画実現のため、そして急速に進展するICT教育、生徒指導上の諸問題、さらには人員不足等に加え、学びの変革、学校の在り方改革に取り組むなど、多忙を極める教育現場への支援に今こそ組織を挙げて努めていく必要があります。本県の子どもたちはもとより、私たちの後輩のため、会員の皆様におかれましてもそれぞれのお立場で引き

続き地元の学校現場や県教委、市町村教委などへ、ご支援・ご協力くださいますようお願いいたします。

本日この大会では、「生きることは描くこと、生きることは演じること～大山忠作とわたし～」という演題で、本県を代表する画伯大山忠作氏のご令嬢で、俳優の大山采子様から大山忠作氏についてと女優として演じる意味などについてご講演いただきます。情報交換は石川支部小針先生、耶麻支部神田先生、いわき支部矢内先生のお三人の実践体験発表があり、ご自身の専門性を活かした取組みなど私たちがこれから生きていく上での参考となる内容です。また、今回郡山大会に続き、本大会の様子をオンラインによるネット配信を実施し、本日参加されなかった会員の皆様が視聴できる環境を準備させていただきました。

ここで、皆様に御礼とお願いを申し上げます。まず、能登半島地震への義援金についてです。協力をお願いをしましたところ、各支部から沢山のご厚志が集まりました。皆様のご協力に心より御礼申し上げます。先日全連退の理事会・総会に出席したおりに、第一弾として石川県退職校長会の川上憲治会長さんに復旧・復興に役立てていただけるようお届けして参りました。本日お寄せいただきました義援金につきましては、折を見て第二弾として石川県にお届けしたいと考えています。まさに13年前に私どもが経験した東日本大震災と同じようなことが折しも元日に能登半島で起こり、現在までに災害関連死を含め、220名の方々がお亡くなりになり、その中に退職校長会の会員も複数含まれていること、そして、未だ4600人の方々が避難生活を余儀なくされているそうです。皆様と、亡くなられた方々のご冥福をお祈りするとともに、被災されたすべての方々にお見舞いを申し上げます、一日も早い復旧・復興を願うばかりです。

お願いは、十七字の絆ふれあい事業についてです。一次審査、二次審査等毎年ご協力をいただきありがとうございます。今年度も先日県教委より協力依頼がありましたので、どうぞよろしく願いいたします。

6月6日、7日に全国連合退職校長会の理事会・総会が東京都で開催されました。その中で、活動目標と総会宣言文から東日本大震災・原発事故という文言が削除されて提案されそうでしたので、本県の震災からの復興状況を丁寧に説明するとともに、東北各県の協力を得て、再び残していただけるようになりました。本県の厳しい状況などについては、すでに忘れ去られているようで、各都道府県会長からは「まだそうなんですね。」「びっくりしました。」という声がほとんどでした。本県の現状を積極的に発信していく必要性を痛感したところです。

さて、みなさんは、福島市在住の「堀野智子さん」をご存じでしょうか。本県、いや世界を代表する御年101歳の最高齢ビューティアドバイザーです。大手化粧品会社のキャリアウーマンとしてこれまで約1億3千万円の売り上げを記録しました。「年齢を考えず、日々を大切に」をモットーとしていろいろな目標に向かって自然体で取り組む姿勢や、新製品の勉強会には欠かさず参加すること、そしてタブレットを使った肌カウンセリングにも挑戦すること、決して年齢を言い訳にせず、経験を活かす姿勢など、こんなふうになを重ねられたらと思わせてくれるお手本であり、まさに「リスクリング」の実践者でもあります。

ご参会の皆様にとりまして、本会創立60年という節目の大会でありますこの二本松大会が、人生百年時代・DX時代に求められる技術革新やビジネスモデルなどの新しい知識やスキルを学ぶ実り多き「リスクリング」としての研修・情報交換の機会になりますことをご期待申し上げます。

結びに、本大会の企画・準備を計画的・組織的に進められました安達支部の伊藤支部長さんをはじめ実行委員そして関係の皆様衷心より御礼申し上げますとともに、本日ご参会の皆様方のご健勝とご多幸、そしてさらなるご活躍をお祈り申し上げます、挨拶いたします。

令和6年6月12日

福島県公立学校退職校長会 会長 福士 寛樹